

第1学年 図画工作科学習指導案

題材名 「うこっけいのきもち」 (絵に表す)

本題材の指導にあたって

このような題材で

- 本題材のねらいは、学校のうこっけいと触れ合いから、うこっけいに興味・関心を持ち、その形や動きのおもしろさを味わい、仲よくなったうこっけいを描き、想像の旅で経験する楽しいことを自分なりの方法で表す力を伸ばすことである。
本題材の開発にあたっては、
 - ・ 校区のよさを再認識するために校区を探索し、飼育小屋のうこっけいを題材として使えないか検討した。
 - ・ 子どもたちが大きくのびのびとしたうこっけいをかけるように描画材を試し、使う筆を決めた。
 - ・ カラーペン、パス、色鉛筆の特性を考え、資料をつくった。
- 主な指導の内容は、次の通りである。
 - ・ 仲良しになったうこっけいや一緒に冒険した様子を絵に表すことを楽しむこと。
 - ・ かわいい、すてきだと思ったところや想像の旅で経験する楽しいことを絵に表すこと。
 - ・ カラーペン、パス、色鉛筆の特性をいかし、ぬり方に気をつけて自分の思いを表すこと。
 - ・ 自分の表したかったことを発表したり、友達の作品のすごいなと思ったところを見付けたりすること。
- 本題材の価値は、次の通りである。
 - ・ 学校の飼育小屋は子ども達にとって休み時間に訪れることのできるとても身近な場所であり、飼育小屋の前を通るときに中を覗き込んだり、休み時間に飼育委員のえさやりを眺めたりして、うこっけいはA小の子どもにとって身近な存在であること。
 - ・ 今まで、パスを用いた学習が多かったが、細かい描画に適した色鉛筆や色ペンなどを描画の内容によって使い分けを経験すること。
 - ・ 身のまわりのものに同化したり、想像の世界に入りやすい1年生の子どもたちなので子どもなりの発見や気づき、大好きだよという気持ちから、その子どもなりの個性を生かした表現が期待できること。
- 教科書題材との関連については、1・2年生図画工作教科書上巻の「たのしいなすごいな」(絵や立体に表す)で好きな動物を見たりかいたりする活動内容とつながりがある。さらに、教師の話や話を聞いてうこっけいと一緒にする楽しいことをかいていく活動は、上巻の「すきなものなあに」(絵に表す)の、こんなものがあつたらいいなとかいていく活動と結びつきがある。また、次学年の「見て、見て、おはなし」(絵に表す)の想像したことをかいたり話したりしてお話の旅に出る活動に発展していく題材である。

このような子どもだから

- 生活科「なかよしいっぱいさいくせん」で飼育小屋のうこっけいと親しんでおり、休み時間も行って観察したり触れ合ったりしている。
- ほとんどの子どもが図工が好きで、図工の時間を楽しみにしており、思いつくままに造形活動を楽しむ姿が見られる。休み時間は、自由帳を広げて、好きな絵を描くことを楽しむ子どもも多い。
- 絵が好きな子もいる反面、絵で表すことに苦手意識を持ち、どうかいてよいか悩む子どもや、活動が停滞しがちな子どももいる。また、今まで彩色の材料としてパスの使い方を主に学習してきたが、色ペンについては、経験が余りない。

このような子どもに

- うこっけいに興味を持ち、うこっけいの様子を絵に表すことを楽しむ。
- うこっけいと想像の旅の様子について思いうかべ、絵に表すことができる。
- 自分の思いに合わせて色ペン、色鉛筆、パスで絵に表すことができる。
- 自分の表したかったことを発表したり、友達の作品のすごいなと思ったところを見つけたりすることができる。

このような展開で

- | | | |
|--------------------------|---|----------------------|
| (1) 感動のある体験活動 | → | ○ うこっけいと触れ合わせる。(生活科) |
| | | ○ まねっこあそびをさせる。 |
| | | ○ うこっけいへの手紙を書かせる。 |
| (2) 思いをつくるための想像を広げる活動 | → | ○ うこっけいからの手紙を読む。 |
| | | ○ うこっけいを教室へ招待する。 |
| | | ○ うこっけいのポーズの動作化させる。 |
| | | ○ うこっけいの写真を見せる。 |
| (3) 思いを深めるための想像を広げる活動 | → | ○ うこっけいからの手紙を読む。 |
| | | ○ 色のボードでイメージを広げさせる。 |
| | | ○ 「うこちゃん」の絵を掲示する。 |
| | | ○ 彩色の参考絵本を見せる。 |
| (4) 思いをふくらませるための想像を広げる活動 | → | ○ たんぽのぬり方の資料を掲示する。 |
| | | ○ たんぽの試しの紙を置いておく。 |
| (5) 完成の喜びを味わう活動 | → | ○ うこっけいのきもち展で交流させる。 |

指導計画（全6時間）

学習過程	時間 目	主な学習活動と内容	展開の工夫
感受・着想	他教科との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○ 感動のある体験活動 ○ 生活科の学習「いきものなかよし」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 飼育小屋の鶏やうこっけいと遊び，うこっけいと仲良くなる。（うこっけいにえさをやる，抱く，おいかけてこするなど） ・ うこっけい博士になろう。体の特徴，動き，など詳しく調べる。 ・ うこっけいに手紙を書く。 ○ 体育の学習「まねっこあそび」 <ul style="list-style-type: none"> ・ うこっけいになって歩く，えさを食べるなどうこっけいのまねをして遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ うこっけいに親しみをもち，毛の柔らかさ・温かさ・くちばしの鋭さなどを感じていくようにうこっけいを抱いたり，触ったりさせる。 ○ うこっけいに親しみをもち，大好きなところを意識付けるために，手紙を書かせる。 ○ うこっけいにより親しみを感じるように体の特徴や動きを詳しく観察したり，調べたりしたことをもとに，自分自身がうこっけいになり，楽しく身体表現をさせる。
発想・構想	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 思いをつくるための想像を広げる活動 ○ 思いを深めるための想像を広げる活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○ これからの学習活動に対する子どもたちの学習意欲が高まるように，うこっけいからの手紙を作成しておく。 ○ うこっけいの絵を描くことに興味・関心をもたせるために，前時までの楽しかったうこっけいとふれあいを想起させたり，うこっけいを1羽教室に招待したりする。 ○ 自分の表したいもだちのうこっけいの様子をイメージできるように，写真を見せたり，身体表現させたりする。 ○ 自分の思いを伸び伸びとした線で大きく表せるように，画用紙に筆で描かせる。 ○ うこっけいのハートを体に置かせて，ハートが入るように大きく描かせる。
表現	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 思いを深めるための想像を広げる活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習意欲を高め，自分なりの工夫をしながら楽しく表現活動ができるようにうこっけいからの手紙を作成しておく。 ○ どんなどころにいつてどんなことをするのか，適当な大きさはどのくらいなのかが分かるように，前もってかいておいた小さな絵をうこっけいの絵にはって演示する。

第1学年 図画工作科学習指導案（1／6）

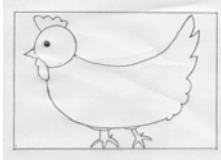







本時 公開授業Ⅰ 場所：1年 教室

本時の目標 ○ 自分の思いが表れるように、筆を使って線の太さを工夫しながら、うこっけいを描くことができる。

授業仮説 ○ 今までの活動の想起やうこっけいからのお手紙でうこっけいへの思いを作ったり、うこっけいの実物、ポーズの写真・動作化で描く形を想像させたりすれば、大好きなうこっけいを描くことができるであろう。

準備 (教師) うこっけいからの手紙、うこっけい(雄)、うこっけいの写真、ハートの切り抜き、筆、墨汁、四つ切画用紙、新聞紙、手拭布、図工ノート

本時展開

主 な 学 習 活 動 と 内 容	教 師 の 支 援
<p>思いをつくるための想像を広げる活動</p> <p>1 本時のめあてを知る。</p> <p>(1) うこっけいからの手紙を聞いて、めあてを知る。</p> <p>(2) 本物のうこっけいや写真を見てうこっけいとの関わりを思い出す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">そとにでて たのしそうなうこちゃんを かこう。</p> </div> <p>思いを深めるための想像を広げる活動</p> <p>2 うこっけいのどんな様子を描くかを決める。</p> <p>○ うこっけいの様子を動作化して、描きたいポーズを決めること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はばたく ・走る、歩く(片足を上げている) ・えさを食べる ・鳴く ・羽づくろい <p>○ 一番描き表したいところを確かめること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くちばし、足、とさか、目、はね(しっぽやふわふわの羽毛) <p>3 うこっけいを描く。</p> <p>(1) 教師が描くのをみて、画用紙いっぱい、体内をあけて描くことを知る。</p> <p>(2) 一番描き表したいところから、うこっけいを描く。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <p>4 自分の作品を友達に見せながら、自分の気に入っているところを発表する。</p> <p>5 図工ノートを書く。</p>	<p>○ うこっけいを描くときの資料になるように、写真はいくつかのポーズの全身と、とさか、尾羽などの部分とに分けて黒板に掲示する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;">    </div> <p style="text-align: center;">よこむき よこむき まえむき</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;">    </div> <p style="text-align: center;">とさか・め しっぽ あし</p> <p>○ 描きたいポーズを決めるの手助けになるように、子どもたちのポーズのいいところを指摘しながら動作化させる。</p> <p>○ 自分の一番描き表したいところ(好きなどころ)を確かめるために、自分がかいたうこちゃんへの手紙を思い出させる。</p> <p>○ のびのび大きく表せるように、教師が大きく描いてみせる。また、一本の筆で、様々な太さの線が描けることを実感させる。</p> <p>○ 気持ちがいっぱい入るように体を大きく、ハートを用いて体内を空けておくよう助言する。</p> <p>○ 表したい部分が詳しく描けるように、実物や写真を見るよう助言する。</p> <p>○ かき進めない子どもには、自信を持って描けるように、好きなどころについて会話をしながら、描きたい様子や部分を引き出すようにする。</p> <p>○ 今日の活動のがんばりを認め合うために、自分がうまくできたところをお友だちに絵を見せながらグループ・全体の中で発表させる。</p>

第1学年 図画工作科学習指導案（2／6）

本時 公開授業Ⅱ 場所：1年 教室

本時の目標 ○ 自分の思いが表れるように、色ペン、色鉛筆、パスなどを使って想像の旅に出てしたことや見たことを描くことができる。

授業仮説 ○ うこっけいからの手紙や、場所のイメージ色、教師の演示で想像の旅を膨らませれば、うこっけいのしたことや見たことを描くことができるであろう。

準備 (児童) うこっけいの絵、気持ちを表すハート、色ペン・色鉛筆・パス（お道具袋に入れて）、図工ノート、画板 （教師） うこっけいからの手紙、場所のイメージ色ボード（青、緑、黄色）、演示用の思い出の絵、うちちゃんの絵










本時展開

主 な 学 習 活 動 と 内 容	教 師 の 支 援
<p>思いを深めるための想像を広げる活動</p> <p>1 うこっけいからの手紙を読んで、本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">うちちゃんのころを、たのしいことでいっぱいしましょう。</p> </div> <p>2 教師の演示をみて、どこへ行って何をするか想像を広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どこへ連れて行きたいか想像すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 緑：森、ジャングル、草原、野原など⇒「みどりいっぱい」 ・ 青：海、川、湖、空など⇒「みずいっぱい」 ・ 黄：太陽の光など⇒「おひさまいっぱい」 ○ 何をしたいのか想像すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 遊ぶ・・・虫取り、遊具遊び、ボール遊び ・ 食べる・・・果物、お菓子、ごちそう ・ 見る・・・植物、動物、昆虫、魚、鳥等の生き物、おもちゃ <p>3 うこっけいの気持ちをうこっけいのハートに描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 連れて行きたい場所のイメージに合う色の前で描くこと。 ○ 行動を想像しながら思い出を描きこんでいくこと。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>4 自分の作品を友達に見せながら、自分の表したかったことを発表する。</p> <p>5 図工ノートを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習意欲を高め自分なりの工夫をしながら楽しく表現活動できるようにうこっけいからの手紙を作成し、読む。 ○ 場所をイメージしやすいように、また、非現実的で夢のある様子をイメージできるように、青、緑、黄のセロファンを掲示する。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 想像する視点を与えるため、「たのしいところへいきたいよ。おもしろいものをみたいよ。おいしいものをたべたいよ。」といううこっけいの気持ちをハートに書いて、ヒントカードにする。 ○ どんなところへ行って、どんなことをするのか、適当な大きさはどのくらいなのか分かるように、前もって描いておいた小さな絵をうこっけいの絵に貼って演示する。その際、楽しかったこと、うれしかったこと、好きなことなどを思い出して描くとよいことを伝える。 ○ 色ペン、色鉛筆、パスを必要に応じて使い分けるようにさせる。 ○ 気持ちを表すハートがいっぱいになるように、旅をする場所は一カ所に限らなくてもよいことを知らせておく。 ○ かき進めない子どもには、自信を持って描けるように、会話をしながら、かきたい様子を引き出すようにする。 ○ 気持ちを表すハートがいっぱいになった子どもには、ハートの外や背景にもかかせるようにする。 ○ どんなことをして一番楽しかったかを絵をお友だちに見せながら発表させる。

うこっけいのきもち

1ねん くみ

うこちゃんのきもちを たのしいことで いっぱいにしよう。

	ふりかえり	さくひん・せんせいから
1	きょうのがくしゅうは、たのしかったですか。    わけ -----	
2	きょうのがくしゅうは、たのしかったですか。    わけ -----	
3	きょうのがくしゅうは、たのしかったですか。    わけ -----	
4	きょうのがくしゅうは、たのしかったですか。    わけ -----	
5	きょうのがくしゅうは、たのしかったですか。    わけ -----	
6	きょうのがくしゅうは、たのしかったですか。    わけ -----	